

2017年度 センター試験 世界史B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評</p> <p>例年通り、テーマ史的なリード文を用いながら広い範囲の小問を集めた形式となっており、大問4題・総解答数36問という分量も昨年と同じ。ただし、戦後現代史を含む問題は、一昨年・昨年の5問から6問に増加した。難易度については、些末な語句やポイントは出題されておらず、ほぼ例年並みと見てよいだろう。</p> <p>出題形式では、空欄補充型の語句問題は昨年と変わらず4問出題された。またグラフを題材とする問題が、昨年に続いて1問出されている。年表形式の問題も昨年と同じく2問であった。一方で、地図問題は昨年の2問から4問に増加した。なお、指定年代の正誤を問う問題は、昨年に続き出題されなかった。</p> <p>なお新課程で強調されている、日本史を意識した問題は、治安維持法と日本国憲法に絡めて2問出題されている。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	世界史上のマイノリティ（少数派）	25点	イギリス・ドイツ・ロシアの銑鉄生産量のグラフを用いる問題を1問、年表形式の問題を2問含む大問。グラフについては、各国の生産量の推移をその場で読み取らせる問題であり、暗記事項を問うものではない。なお、他の大問も同様であるが、掲載された絵や写真については、設問を解く上で直接の関係はない。
第2問	世界史上の革命や政治体制の変化	25点	古代から戦後現代史まで、幅広い範囲と地域を扱った大問。地図問題も含まれており、センターでは苦手分野を作らないことが重要だということがよくわかる。
第3問	国家が諸地域を統合するために採用した制度	25点	従来の傾向通り、地図問題・文化史も含めた総合的な学力が求められる内容である。なお地図問題は、黄河全体と大運河のルート全体を見せる、ユニークなものであった。
第4問	世界史における自然環境・資源と人間との関わり	25点	古代アメリカ文明・アジア各地・近現代の欧米史など、非常に幅広い範囲を扱った大問。出題形式も多様であり、現代史の年代整序問題が1問、また文化史も2問、地図問題も2問含んでいる。